

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅹ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	山田 克宏	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

人生の最終段階における介護の意義と目的を理解し、基本的な介護の知識・技術・態度を習得する。「死の受容」「生きる意味」「苦悩」「関係性」「日常の生活支援の延長」という概念を通じて「看取り」ケアやその後の家族へのグリーフケアとどのように繋がっていくのか理解をしていく。

【到達目標】

- 1) 人生の最終段階における介護の意義・目的を説明できる。
- 2) 人生の最終段階にある人のアセスメントについて理解し、実践できる。
- 3) 人生の最終段階にある人を支える制度・ACP・多職種連携の内容、意味、意義を説明できる。
- 4) 悲嘆のプロセスとグリーフケアの関係・意味を説明できる。
- 5) 「看取り」ケアとグリーフケアの関係を説明できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 終末期における介護の意義、目的、「看取り」ケアの考え方、家族との協働作業、全人的ケア
 第 2回 ライフサイクルと人生観・死生観、時間の有限性（個人ワーク・グループワーク）
 第 3回 ライフサイクルと人生観・死生観、時間の有限性(発表)
 第 4回 告知とインフォームドコンセント、事前指定書(個人ワーク・グループワーク)
 第 5回 告知とインフォームドコンセント、事前指定書(発表)
 第 6回 人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(個人ワーク・グループワーク)
 第 7回 人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(発表)
 第 8回 人生の最終段階における人の心身の苦痛と諸症状の理解とケア(技術、かかわり方について学ぶ)。
 第 9回 「看取り」ケアの困難性、「看取り」ケアは、「日常の生活支援の延長」ということ、「生きる意味」を見出すということ
 第10回 「死」について考えるーレポート作成ー
 第11回 人生の最終段階にある人の家族ケア、家族を含む「看取り」ケアにおけるケアプラン作成について
 第12回 臨死期のケアの方法①看取り
 第13回 臨死期のケアの方法②エンゼルケア
 第14回 「看取り」ケアにおけるACPの役割、チームケアについて(ツール・専門職の役割について学ぶ)。
 第15回 グリーフケア、予期悲嘆の関係、「看取り」ケアと悲嘆の関係(概念の関係性を学ぶ)。

【授業実施方法】

講義とグループワークを組み合わせ、実施する。事前学習、視覚教材を使用し、段階的に学習をしていく。

【授業準備】

「死」「看取り」「グリーフケア」「死生観」「ライフサイクル」に関する文献を読んでおくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本、社会福祉概論、高齢者福祉論、障害者福祉論、ソーシャルワーク演習、介護実習、ソーシャルワーク実習、ゼミナールⅠ・Ⅱ。

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ、第3版、中央法規。

【参考文献】

高木慶子：喪失体験と悲嘆、医学書院、2007年、岸本英男：死を見つめる心ーがんとたたかった10年間ー、講談社、2010年、遠藤周作：深い河、講談社、1993年、佐藤俊一・竹内一夫：医療福祉学概論、川島書店、1999年。

【成績評価方法】

演習等への取り組み(20%)、レポート(20%)、筆記試験(60%)

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は、介護老人保健施設で介護職・居宅介護支援事業所でケアマネとして「三人称の死」、家族として「二人称の死」にかかわってきた。そのような臨床体験と皆さんが経験してきた「ペットの死」を含む、「別れ」の意味を、共に学んでいきたいと思います。

【学生へのメッセージ】

「死」「看取り」「生きる意味」を捉え、死とのかかわり方と向き合っていく。また、視覚教材、個人ワーク、グループワークを通じて、自分の分からないこと、難しいことを明らかにしていくこと。最終的には、知識・経験・実習と結びつけながら、「ことば」の根源的な意味を再認識していくこと。